Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

SSS035-P03 会場:コンベンションホール 時間:5 月 25 日 14:00-16:30

1854 年安政南海地震に関する 2 史料の比較
Comparison of two records on the 1854 Ansei Nankai earthquake

中西 一郎 [1*]
Ichiro Nakanishi[1*]

[1] 京都大学 理学部 地球物理学教室
[1]Dept. Geophysics, Kyoto University

安政元年（嘉永七年）十一月五日（1854 年 12 月 24 日）に発生した安政南海地震に関する次の文献史料を比較する．
（1）「嘉永七甲寅年十一月五日土佐国大地震并御城下大火事且大汐入之実録之事」（高知県立図書館）．
（2）「嘉永七甲寅年十一月五日土佐国大地震并御城下大火事且大汐入之実記」（京都大学図書館）．

（1）は 40 丁,（2）は 29 丁あるが，筆は異なる.（1）はその翻刻が『新収日本地震史料』第五巻別巻五ノ二（1987）の 2108 頁～2119 頁に載っている．ここでは『新収』にある（1）の翻刻と（2）の翻刻を比較する．以下に示すように両史料は似ている箇所が多く，土佐国及び城下の被害を編纂した記録が存在したことが考えられる.（2）は記述が途中で止まっているが，その理由は不明である．

地震史料の比較としては，1707 年宝永地震に関する『朝林』,『塩尻』,『鸚鵡籠中記』の記載が比較され，記事の類似性が指摘され災害情報の流れが議論されている（鵜飼尚代，2005）．

（1）,（2）の冒頭部分を記す.
（1）于茲嘉永七甲寅年十一月四日朝五ッ時良暫之間小地震二而汐狂ルイ日中五六度急二汐之指引有此潮之指引狂ルイ有時ハ大地震発る事必定成るに諸人気モ付す居候中翌五日七ッ過時俄二大地震始る（『新収』，2108 頁上段）
（2）于茲嘉永七甲寅年十一月四日朝五ッ時良暫之間小地震二而汐くるい日中五六度急二塩の差引有此塩之差引狂ひ有時は大地震発る事必定なるに諸人気も付す居候中翌五日昼七ッ時過俄二大地震始ル
用いている字体は異なるが同一の内容である．

少し読み進む.
（1）死人九十五人格別は不知然二其夜又々如前大震両度有之中震ハ数知す然に其火事中半時斗過二波所潰突浪と言潮即時二発り桂浜之人家を押流し夫より内海 ･････（『新収』，2108 頁下段）
是二益々余方を失イ誠に哀れかなしの所躰二而河□と言宛所茂なく市中之人々ハ是上町之如遁込候茂有多之人先南北之山を志し ･････（『新収』，2109 頁上段）
（2）死人九拾五人格別ハ不知然二其夜又々如前大震両度有中震ハ数知れす然に其火事中半時斗過テ彼所謂津波と言潮即時二発り桂浜之人家を押流し夫より内海 ･････
是二益途方を失ひ誠二命からからの所躰二而何所と言宛所もなく市中の人々ハ只々上町の如く遁上ルも有多くの人先南北の山を志し ･････

（1）,（2）の差は次第に大きくなり,（1）では一丁以上省略される．

（1）には写し間違いと思われる箇所，省略したと思われる箇所が多い.（2）にもそのような箇所があるが,（1）に比較してかなり少ない．しかし，すでに述べたように記述が途中で終わっている．両史料を用いることにより，より正確な被害記録（原本）が復元される可能性がある．安政東海・南海地震に関する史料数は膨大ではあるが，記載内容の重複は多いと思われる．各史料の検討が必要かもしれない．

キーワード: 歴史地震, 安政南海地震, 土佐国
Keywords: historical earthquake, Ansei Nankai earthquake, Kochi prefecture